

# 彩菜栽

2018年  
12月

## 冬の手入れが翌年の出来を決める アスパラガス



アスパラガスは野菜の中では長命で、一度植えれば数年は収穫が楽しめます。毎年良い収穫物を得るには、冬の適切な手入れが大切です。

若芽の収穫を一定日数で打ち切り、芽を伸ばしたままにすると、葉が開いて丈が伸び、葉の光合成作用が旺盛に行われ、秋になると同化養分がねに蓄えられ、11月～12月には株全体が休眠に入ります。霜が3～4回

降りると葉の黄化が進み、休眠はいっそう深まってきます。

ここから先の手入れで大事なことは、葉が完全に黄変し、休眠が深まっている頃を見計らって、地際から5～6cm上のところで葉を刈り取りま

す。この枯れ葉には茎枯れ病などの病原菌が付いているので、落ち枯れ葉と共に畑の外に持ち出し、焼却または廃棄します。この処置が不十分だと、病原菌

が茎葉の中で越冬し、翌年の発生源になるからです。できるだけ丁寧にかき集めて処分することが肝心です。

これら病害が発生すると、数年たった大株でも枯死し、大減収になってしまいます。

茎葉をきれいに片付けたなら、まず株元に多くの土寄せをしていた場合には、土を畝間に残します。土寄せが少なかった場合には、そのまま畝間の通路部分を中耕しながら、畝の両側に深めの施肥溝を作り、その中に粗大堆肥（発酵度は中程度）と油粕、緩行性の化成肥料を施し、アスパラガスの根株を深く埋めるようにし、畝上に土を大きく上げておきます。

地域ほど土を大きく盛り上げることが大切です。

こうして越冬後の3月ころ、芽の萌芽（ほうが）に支障のない程度に土を取り除き（寄せ土戻し）、畝間に土を落とします。このときに春の追肥として、化成肥料や有機配合の肥料などを、1株当たり各大さじ3杯程度を目安に与えておきます。再三土を動かすことにより、地面付近に落ちていた雑草の種子の発芽を抑えられ、翌年の除草の手間が省けます。

栽培年数が長くなり、株元の根系が過密になり、株全体が浮き上がるようになったら、冬の休眠中に株全体を掘り上げ、分割して他の畑に、株間を広げて植え替えることで、再び勢いは回復するでしょう。

